

すぐ描ける!

高崎康隆+本田奈緒子

彰国社

# ガーデンデザインの プレゼン テクニック

作図のテクニック

表現力を磨く

演出力を高める

コピーで応用

着彩テクニック

模型とデジカメ活用術

44の速く楽しく描ける、  
基本ワザ&便利ワザ!

## はじめに

一般に、庭のプレゼンテーションツールといえば、「パース」や「アイソメ」という言葉を連想する方が多いのではないのでしょうか。さらにパースといえば、1点透視の根気のいる作業を思い浮かべて、どうもよく理解できない、じつは苦手、という方も多いと思います。でも、ガーデンデザイナーの仕事は、デザインを人に伝えることからスタートします。いかにクライアントに伝えて、気に入ってもらうかが勝負となる以上、苦手と言ってはいられません。プレゼンに必要なイメージスケッチをつくるためには、作図と表現の技術が必要です。表現には、線描と着彩の技術が必要です。この本は、それらについて短時間で効果的に見せるテクニックを紹介します。

はじめに作図ですが、私は、日常のプレゼンにおいて、アイソメ図は描かずにアクソメ図を多く描きます。これが最も簡単な立体表現で、庭の全体説明のためには優れたツールだからです。また、作図に時間を要するグリッド法パースもほとんど描きません。パースは平面グリッドからではなく、立面図や断面図から描き起こします。そして、この本で紹介するグリッドシートを使用すれば、短時間で1点透視図が描けるように工夫しました。

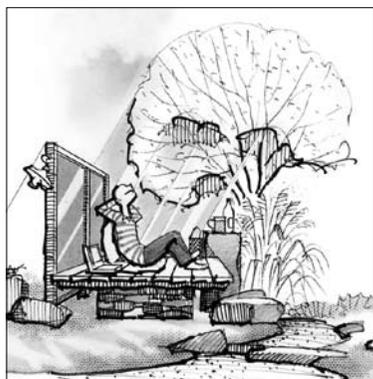
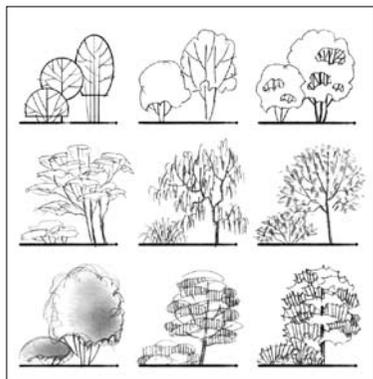
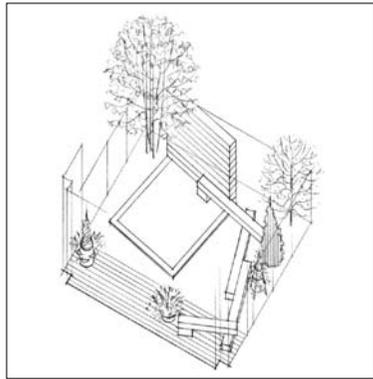
表現はどうでしょうか。1枚の線描原図からさまざまな紙にコピーして趣向を変えてみたり、トレーシングペーパーに着彩するという裏ワザもあります。庭を彩る植物や人物・点景物の描き方のコツ、演出力を高めるテクニック、小道具を使用しての作画。少しの時間で、驚くほど上手に見える情景が生まれます。また、デジカメで平面図を斜めから撮影してパースの下図として利用するという、これまで1点透視といえばグリッド法以外にないと思っていた方には、反則ワザとも思えるテクニックも紹介します。

クライアントとのやりとりの中で、この本で紹介されたプレゼンのコツが、言葉以上に役立つコミュニケーションのひとつとして活用できることを願っています。



2012年3月  
高崎康隆・本田奈緒子





## 目次

はじめに 3

### 第1章 作図のテクニック

1. 製図道具の紹介 8
2. 平面から立体へ アクソメ図/最も簡単な立体表現 10
3. 立体に奥行きをもたせる アクソメ図から1点透視図へ 12
4. 傾き、消失点で見せ方を変える アクソメ図と1点透視図 14
5. 立面図から1点透視図を描く 16
6. 断面図から1点透視図を描く 18
7. 平面図から見下ろしの景を描く 20
8. 1点透視で見上げの景を描く 22
9. グリッドシートで1点透視図を描く① 24
10. グリッドシートで1点透視図を描く② 26
11. グリッドシートの応用テクニック 28

### 第2章 表現力を磨くテクニック

#### 植物・人物・点景物

12. 植物を描く① 30
13. 植物を描く② 樹木の描き分け 32
14. 植物を描く③ 枝葉の描き分け 34
15. 植物を描く④ アクソメと1点透視の表現テクニック 36
16. 人物を描く 38
17. 動物を描く 40
18. 点景物を描く 42

【コラム】 絵本にはアイデアがいっぱい!① 44

### 第3章 演出力を高めるテクニック

#### 道具を使ってひと工夫

19. 筆記用具を変えて描く 46
20. 図に立体感を出す ハッチング 48
21. 描き直しのリスクを回避する 墨かけ 50
22. 白抜きを表現する 消しゴムのワザ 52
23. 舗装や低木地被の模様を描く フロッタージュ 54

24. 大量の樹木・点景を描く 手づくりのゴム印 56
25. 地形を表現する 58
26. 効果的に影をつける 60
27. テクニックを組み合わせる 62
- 【コラム】 絵本にはアイデアがいっぱい!② 64

### 第4章 コピーで応用できるテクニック

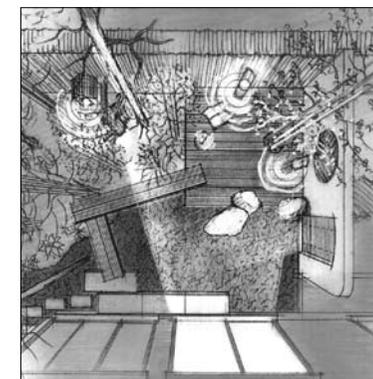
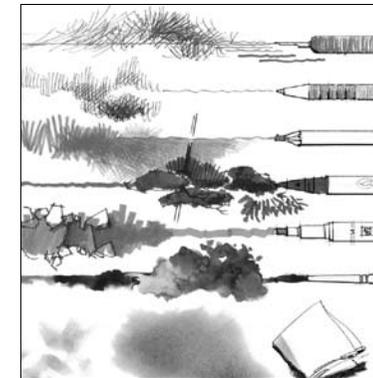
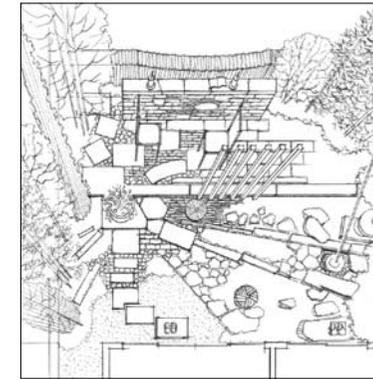
28. 1枚の原図から複数案をつくる 66
29. 図面の印象を変える  
拡大・縮小コピー、画像モードを変える 68
30. トレペの利用でフレーム効果 70
31. 夜景をつくる① 72

### 第5章 着彩テクニック

32. 着彩道具の紹介 74
33. 紙で変わる着彩の仕上がり 76
34. 短時間で仕上がるパステル着彩 78
35. 植物を着彩する 80
36. 夜景をつくる② 82
37. 1枚の原図から四季の絵をつくる 84

### 第6章 模型とデジカメ活用術

38. 模型道具の紹介 86
39. 高低差を表現する 88
40. 樹木をつくる 90
41. 照明を仕掛けて夜景を表現 92
42. 模型写真から1点透視図を描く 94
43. 現場写真から1点透視図を描く 96
44. デジカメでグリッド法作図ができる 98

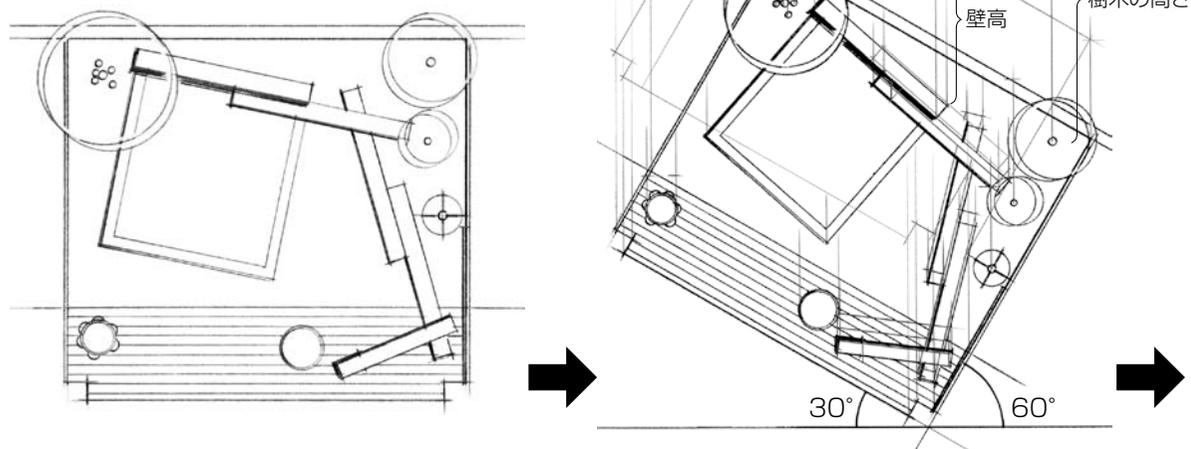


## 2. 平面から立体へ

## アクソメ図/最も簡単な立体表現

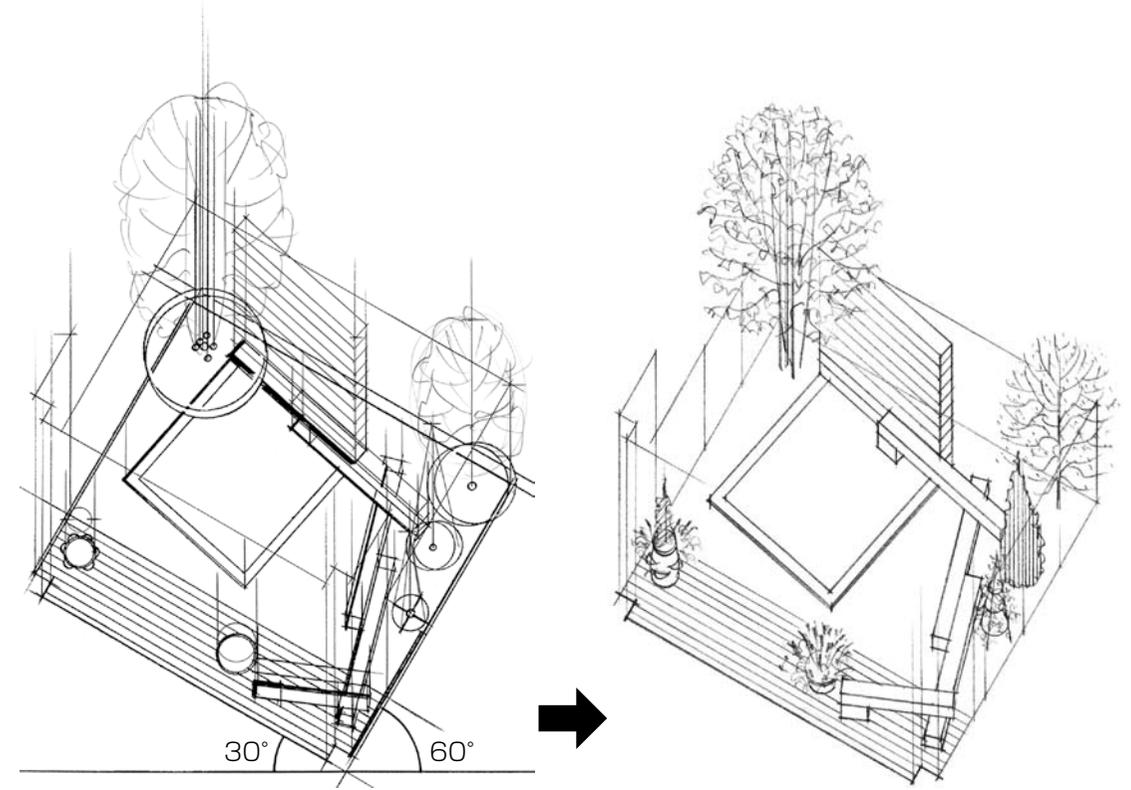
アクソメ図はAXONOMETRIC DRAWINGの略。  
平面図に高さ情報を加えるだけの最も単純な作図法です。  
利点は、平面図をそのまま元図として使い、立体の空間を速く描けること。  
そして、図面のどこをとっても均一の縮尺で表現されているので、  
全体説明図として優れています。

### 手順



1. もとになる平面図。

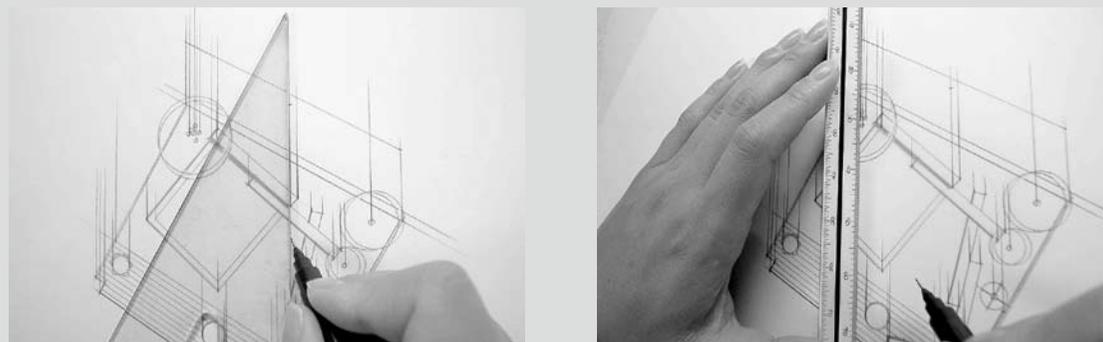
2. 任意の角度をつけて、平面図を傾ける。  
この例では左30°、右60°。  
3. 樹木や工作物・点景物の各位置から垂直線  
を立ち上げて、高さを作図する(平面図と同縮尺)。



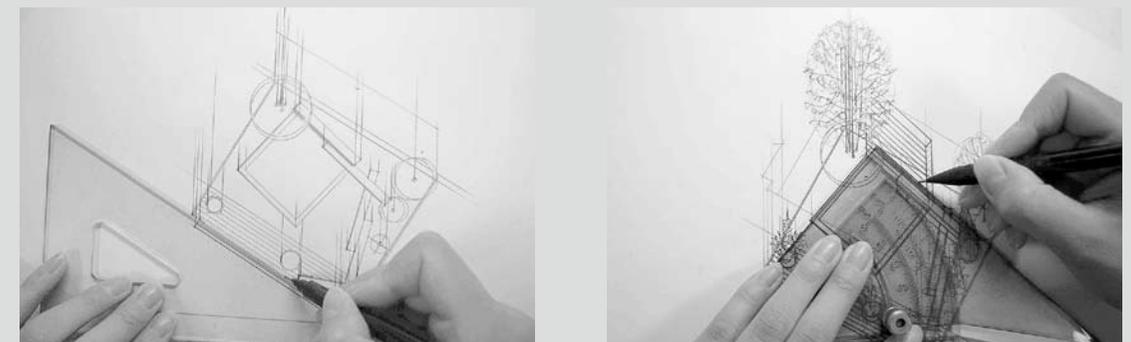
4. 樹木の枝と葉張り、壁の意匠などを描き  
込む。蛍光ペンなどで立体形を着彩しながら進  
めると、仕上げのイメージをつかみやすい。

5. 手順4.の上にトレーシングペーパーを重ねて、  
仕上げの線描を完成させる。

### ポイント



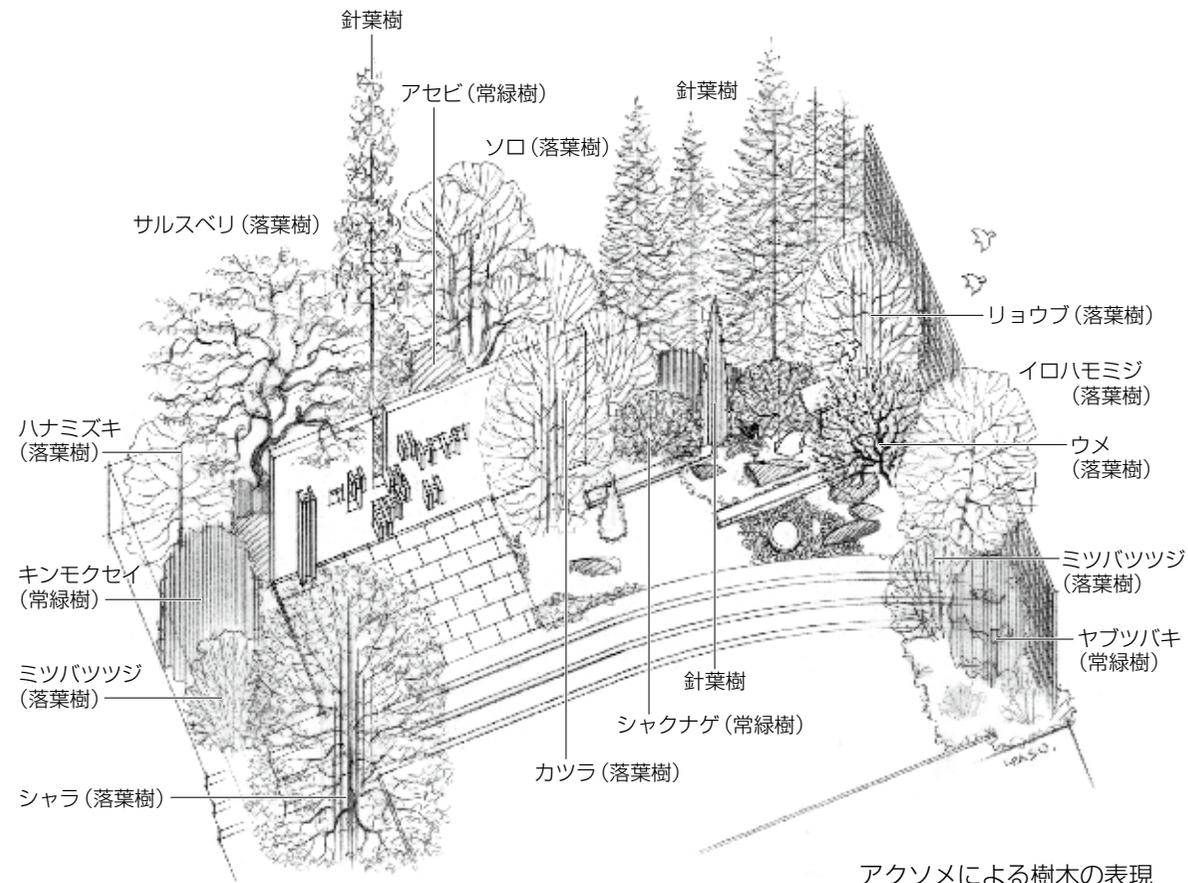
手順2.の過程で立ち上げた垂直線に三角スケールをあてて、高さを印しておく。



アクソメ図の作図では、平行な線がたくさん引かれることになる。そのため、平行定規+三角定規(または  
勾配定規)の合わせ作業が頻繁に行われ、これに慣れることが作図スピードの鍵を握る。勾配定規を使う場  
合は、平面図の傾け角度は任意となるが、三角定規を使用する場合は、30°、45°、60°のいずれかとなる。

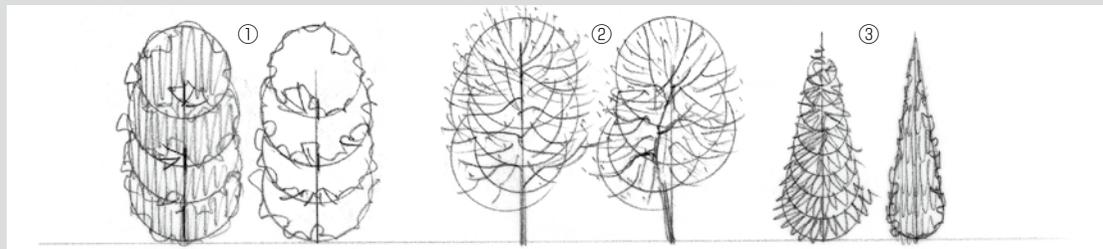
# 15. 植物を描く④

アクソメによる樹木の表現では、斜め45°に見下ろす構図を頭の中にイメージしましょう。また表現密度は、画面のどの部分も均一です。



アクソメによる樹木の表現

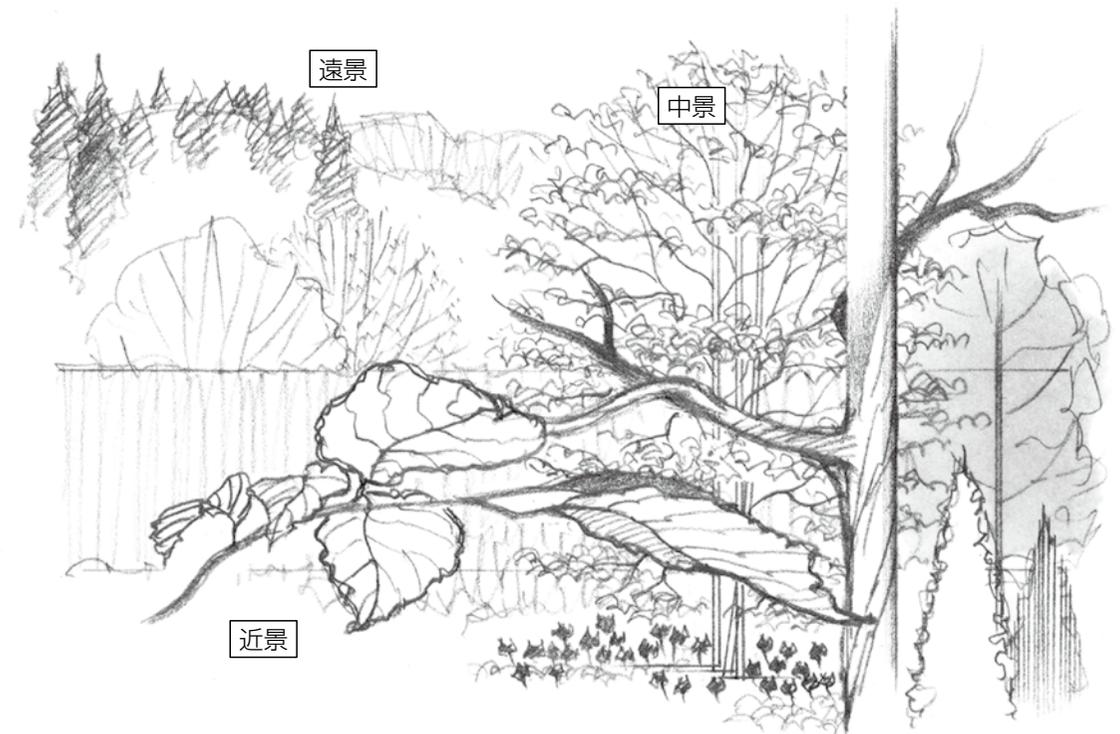
## ポイント



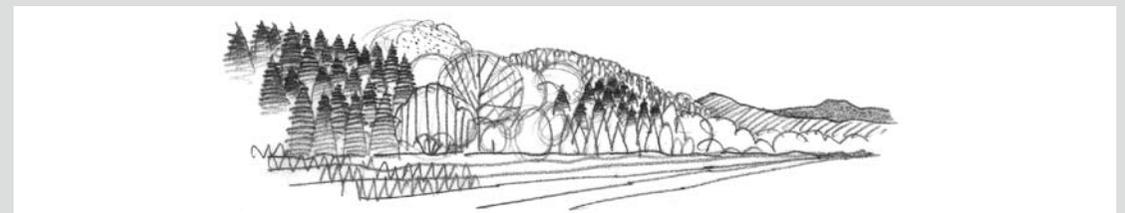
- ①常緑樹の場合、1年中葉がついているため、幹や枝は多く見えない。葉群のつくる輪郭を表現し、ハッチングや墨かけを加える。
- ②落葉樹の場合、落葉期があることが特徴なので、幹と枝を描き込んで全体像を表現する。
- ③針葉樹の場合、細い葉が特徴なので、放射線状にたくさんの線を描いて、全体像を表現する。

# アクソメと1点透視の表現テクニック

1点透視図では、手前のものは大きく、遠くにあるものは小さく表現されますから、樹木も遠近による描き分けが必要となります。



1点透視による樹木の表現。遠景・中景・近景を描き分けることで、奥行きが表現できる。



庭の借景や背景として森林や山を表現する場合、対象が遠のくにしたがって、いかに省略をしていくかが工夫のしどころ。針葉樹の最前列は三角形の全景を描く（手前・左の針葉樹は濃くして近景を強調、奥・右の針葉樹は奥行きを強調するため先端以外は白い）。山の中腹から、尾根に近づくとつれて、一層の重なりをつける。梢の先端部のハッチングを密にして、鋭角を強調する。落葉樹はあっさり外形の円を描き、針葉樹との濃淡に差をつける。

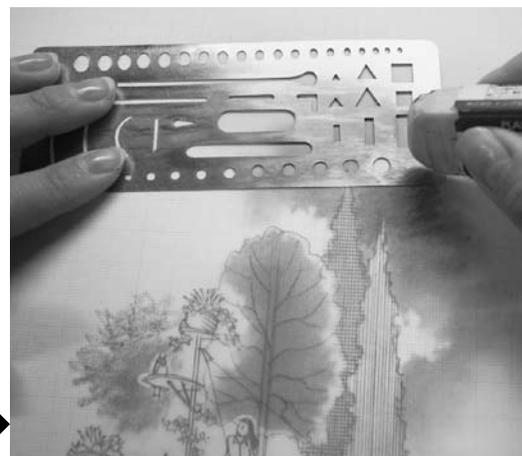
# 22. 白抜きを表現する

墨かけやハッチングで仕上げた図面を、消しゴムで白抜きにします。  
 図に陰影を与えるのはもちろん、夜景や雪景色、水面の表現も可能となります。

## 手順

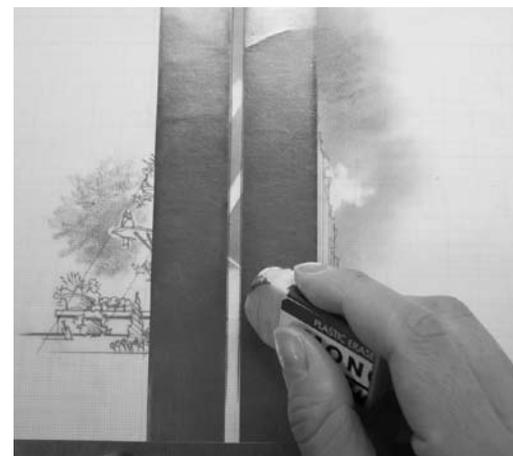


1. 原図を裏返して墨かけをし、雲や光の表現を加えるために消しゴムをかける。

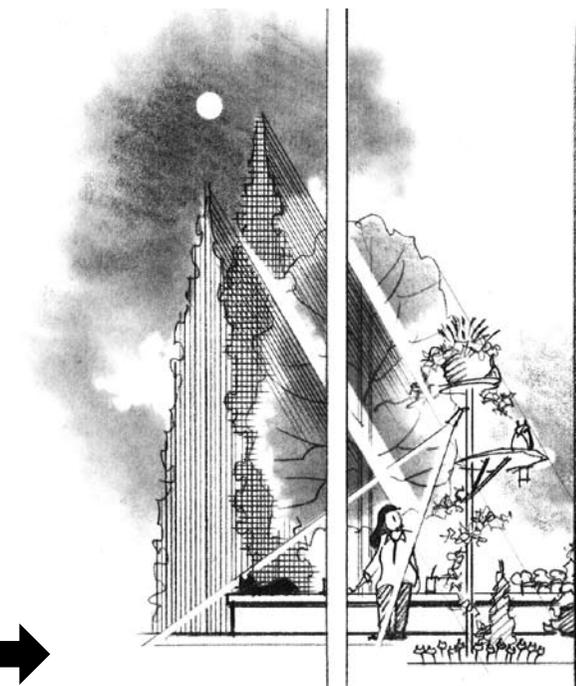


2. 月は、字消し板を使って丸く消す。

# 消しゴムのワザ



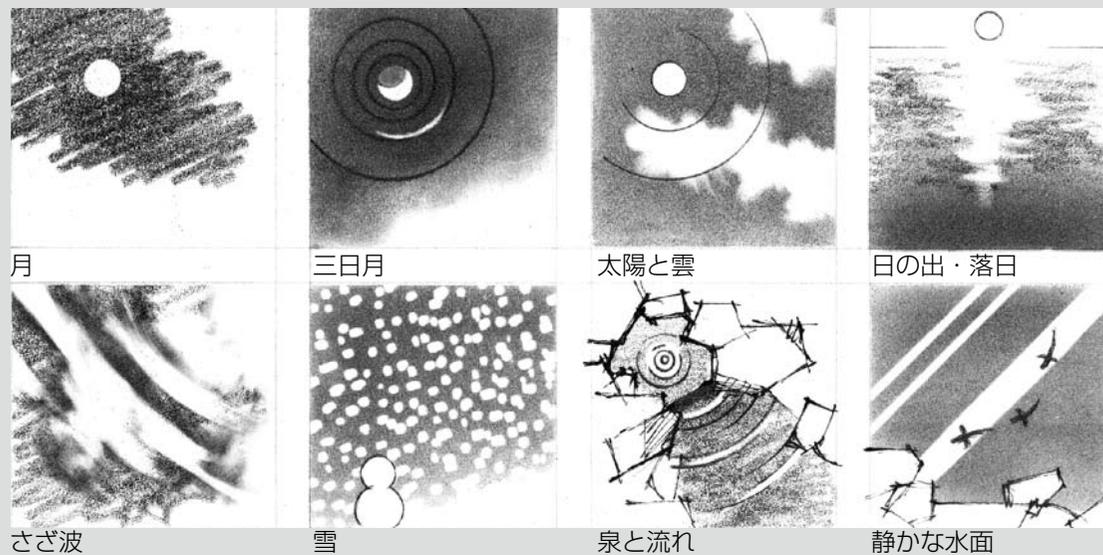
3. マグネットプレートを当てて必要箇所を消し、近景の樹の幹や建物の柱を表現。



4. 手順3. と同様の方法で月明かりや照明光も描き、夜景の完成。

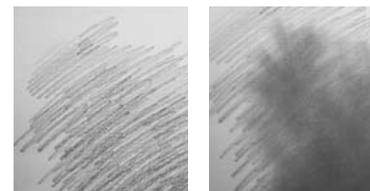
## ポイント

白抜きによる効果的な表現例



## 応用例

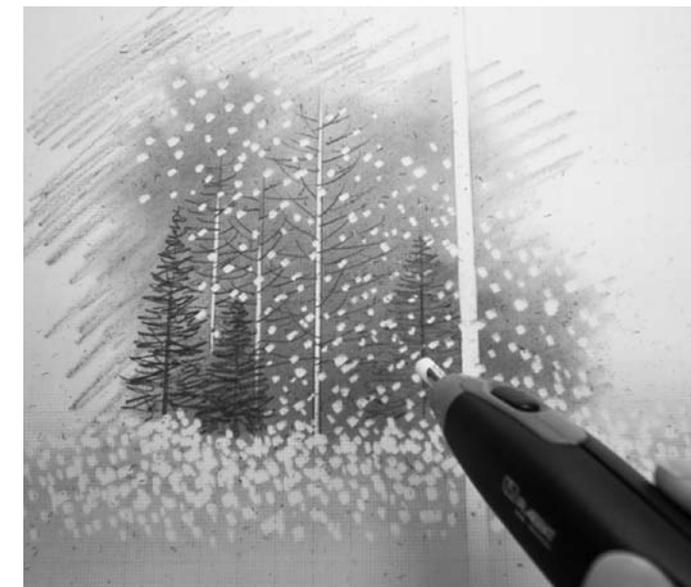
雪景色などは、この表現方法が効果的である。



1. 鉛筆または芯ホルダーで斜めにハッチングし(左)、ティッシュでムラなくこする(右)。



2. 樹木を描き、幹を白抜きする。



3. 電動消しゴムで雪を表現する。完成。

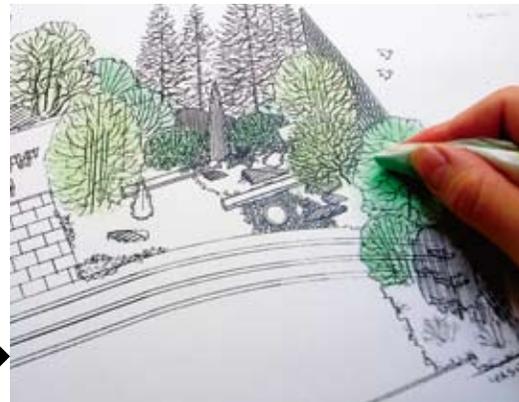
# 35. 植物を着彩する

植物を着彩するときは、はじめに落葉樹・常緑樹・針葉樹の色の組み合わせを決めます。季節を設定して、新緑・紅葉・草花などの色も検討しましょう。さらに時間帯も設定すれば、光条件もふまえての表現が可能となり、説得力のあるプレゼンツールが生まれます。

## 手順



1. はじめに、落葉樹 (A、B)・常緑樹 (C)・針葉樹 (D、E) の色の構成を決める。



2. 葉色の薄い落葉樹から塗り始め、常緑樹・針葉樹の濃い色へ塗り進めていくのが原則。線描のとき、あらかじめ樹の描き方に違いを出しておけば、2色くらいでも十分に变化のある仕上がりになる。



3. パステル着彩の完了後、色鉛筆で細部を表現し陰影をつけて、さらに修正液を使って白い花が咲いている様子を表現する。

## ポイント

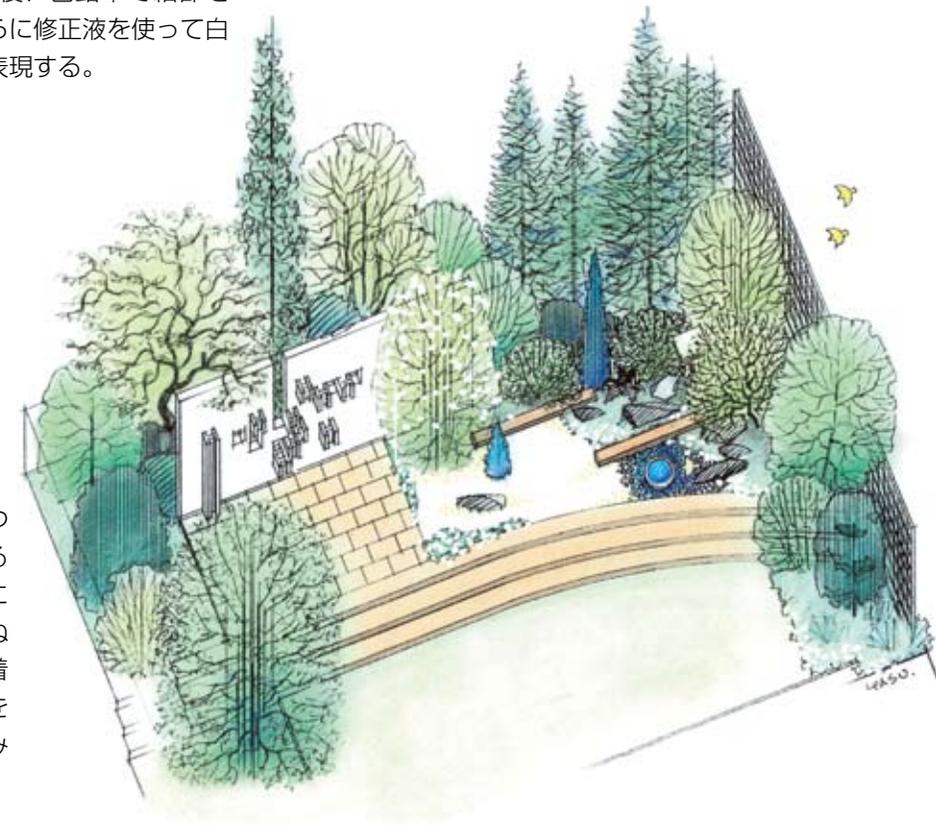
草花の着彩で季節の違いを表現できる。



冬から早春/園路沿いの背の低い球根類を表現すると、早春の庭の雰囲気が出る。



秋/紅葉と花を赤く着彩すると、冬から早春に咲く黄色の花景との違いで、季節感が伝わる。



4. 完成。1本の樹木については、上部の日の当たる部分には明るい色、下部に濃い色と、2色程度で重ね塗りする。このパステル着彩法は、線描表現の良さを損なわない程度の塗り込みにとどめることがコツ。